

小説『坂の上の雲』の舞台 松山城下を歩いてみよう

小説の主人公である正岡子規、秋山好古・真之は、松山の城下で生まれ育った。まちを歩いて小説の登場人物ゆかりの場所を訪ねてみよう。

のぼさんと
歩く

坂の上の 雲マップ

のぼっと 城下コース

- 小説ゆかりの地 (小説に登場する内容)
- 小説関連地
- その他の地域資源
- 寄り道チェックポイント

坂の上の雲
ミュージアム

坂の上の雲ミュージアム

松山城南麓に位置し、周囲の環境と調和した、『坂の上の雲』まちづくりの中核施設。小説の魅力などを伝えるさまざまな展示をしている。

🕒 9:00～18:30(入館は18:00まで)
🗓 月曜日
(休日の場合は開館、ほか臨時開館あり)
☎ 089-915-2600



4 から坂の上の雲ミュージアムまで徒歩5分

のぼっと 城下コース

スタート 「松山市駅」からスタート!

1 「松山市駅」から
1 まで徒歩3分



1 子規誕生地跡

子規は慶応3(1867)年9月17日(旧暦)、この地で生まれた。竹垣があり、内側にサング樹が並んだ家であったという。



Check 花園町通り

「歩いて暮らせるまち松山」の新たなシンボルロード。堀之内と松山市駅を結び、市内で最も広い道路の幅を持つ花園町通りが無電柱化や道路空間の再配分により、平成29年9月23日にリニューアルした。



Check 城山公園(堀之内)



周囲に堀が巡らされた緑豊かな公園は、松山城の三之丸跡。市民の憩いの場となっている。

2 から3 まで徒歩2分

Check 2 河東碧梧桐(かわひがしへきごとう)の句碑

碧梧桐は、季節や定型にこだわらない句と独特の書体で俳壇に名を残している。「さくら活けた花屑の中から一枝拾ふ」と刻まれている。



3 松山中学校・勝山学校跡

江戸時代に藩校明教館があった場所で、明治時代には勝山学校・松山中学校として近代教育の拠点となった。少年時代の正岡子規や秋山真之がここで学び、明治28(1895)年には後の文豪・夏目漱石が松山中学校に英語教師として赴任した。現在は、漱石が松山を去る際に詠んだ句とともに記念碑が建てられている。(明教館は現在、松山東高等学校の敷地の一面に移築・復元されている ※P16で紹介)



Check 二之丸史跡庭園

松山城二之丸跡が、史跡庭園として整備されている。

🕒 9:00～17:00
(入園は16:30まで。季節により変動)
🗓 12月第3水曜日
☎ 089-921-2000



3 から4 まで徒歩1分
(二之丸史跡庭園へは3 から徒歩5分)

Check 4 愛媛県庁

昭和4(1929)年に竣工(知事が執務する庁舎としては、全国で3番目に古い)。設計者の木子七郎は、好古と親交のあった実業家である新田長次郎の娘婿で、旧松山藩主久松定伯爵の別邸「萬翠荘」も手がけた。



全体マップ.P1-D-3

